

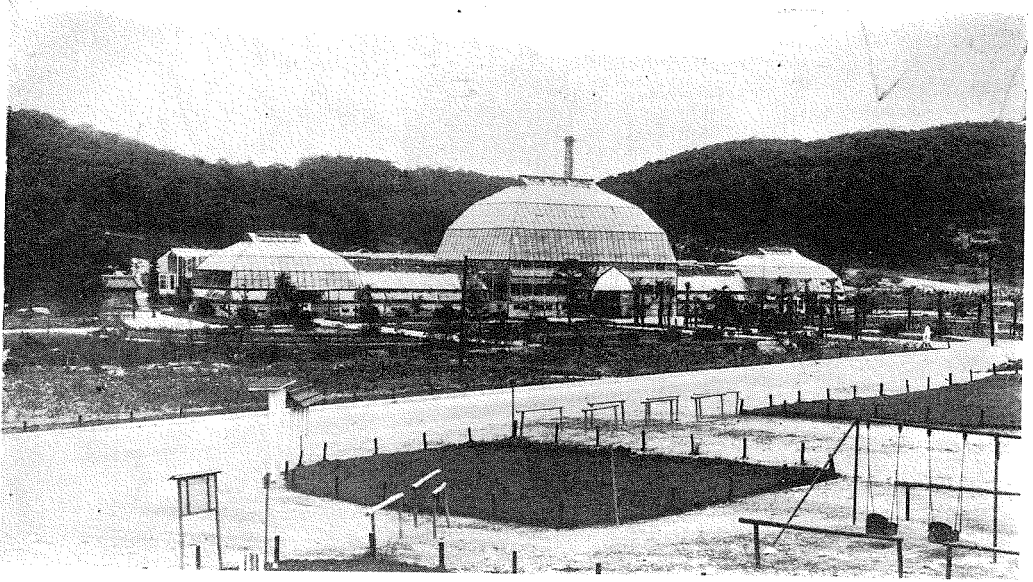
名古屋市東山植物園及動物園工事

名古屋市土木部長

花井又太郎

(1) 名古屋市東山公園平面圖・A動物園、B植物園、C溫室、D兒童園、E上池、F奧池、G龍神社、H乾山、I御殿山、J雪見臺、K富士見臺、L千疊平、M曙峠、N巽山、O望洋臺、P夕陽ヶ丘、Q菖蒲池
R事務所、S便所。



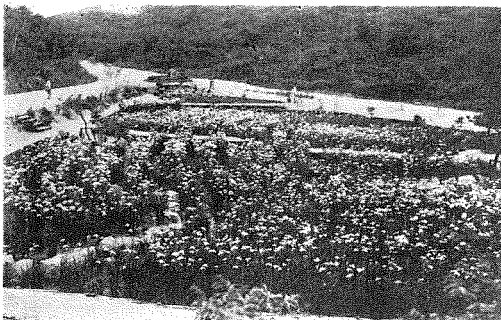


(2) 東山植物園全景。中央が面積427坪の大温室である。

沿革

昭和7年10月東邦瓦斯株式会社より植物園新設費として金25萬圓の寄附あり、一方名古屋市都市計畫第16號公園指定面積81萬坪の内約1/3に相當する24萬有餘坪の敷地大部分を關係地主の寄附に仰ぎ以て一大森林公園を造成し、同園内に植物園及動物園の新設計畫を樹て、昭和十一年一月先づ植物園建設工事に着手、續いて十一年六月動物園工事に着手、昭和11年3月相前後して竣工、開園の運びを見たものである。

(3) 花 菖 蒲 園



位置

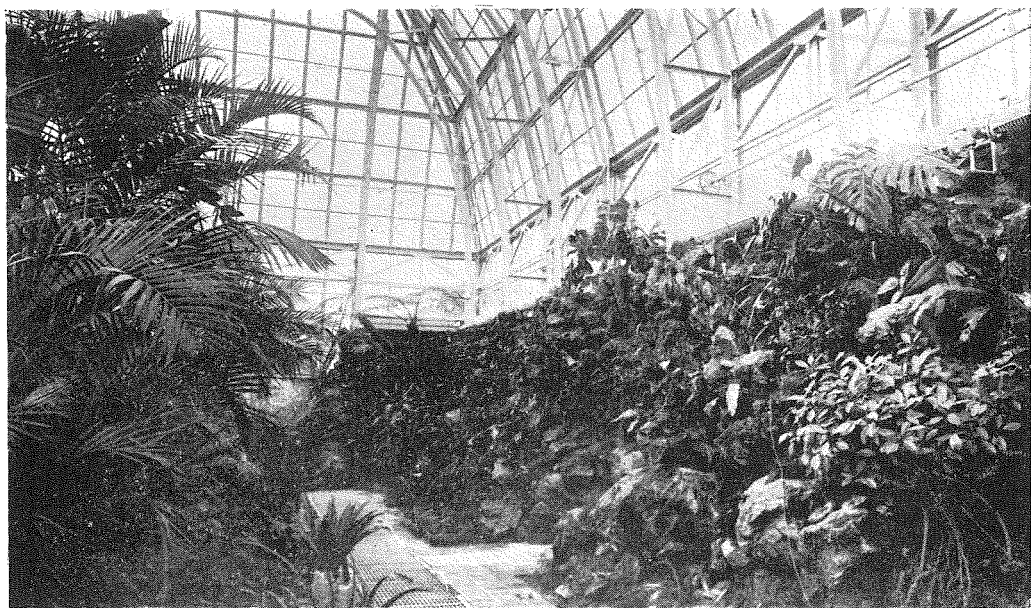
名古屋市東區田代町、名古屋市の東郊丘陵地東山公園内にして、都心より約6軒、市電所要時間約20分である。

植物園

敷地面積62,700平方米、大温室面積427坪、藥草園、郷土植物園、教材園、竹林園、工藝植物園、水産植物園、ロックガーデン、山吹萩園、ドウダン園、ハマナス園、卵ノ花園、木瓜園、紫陽花園、芍藥園、牡丹園、バラ園、椿園、花菖蒲園等(面積19,000坪)の植物主要

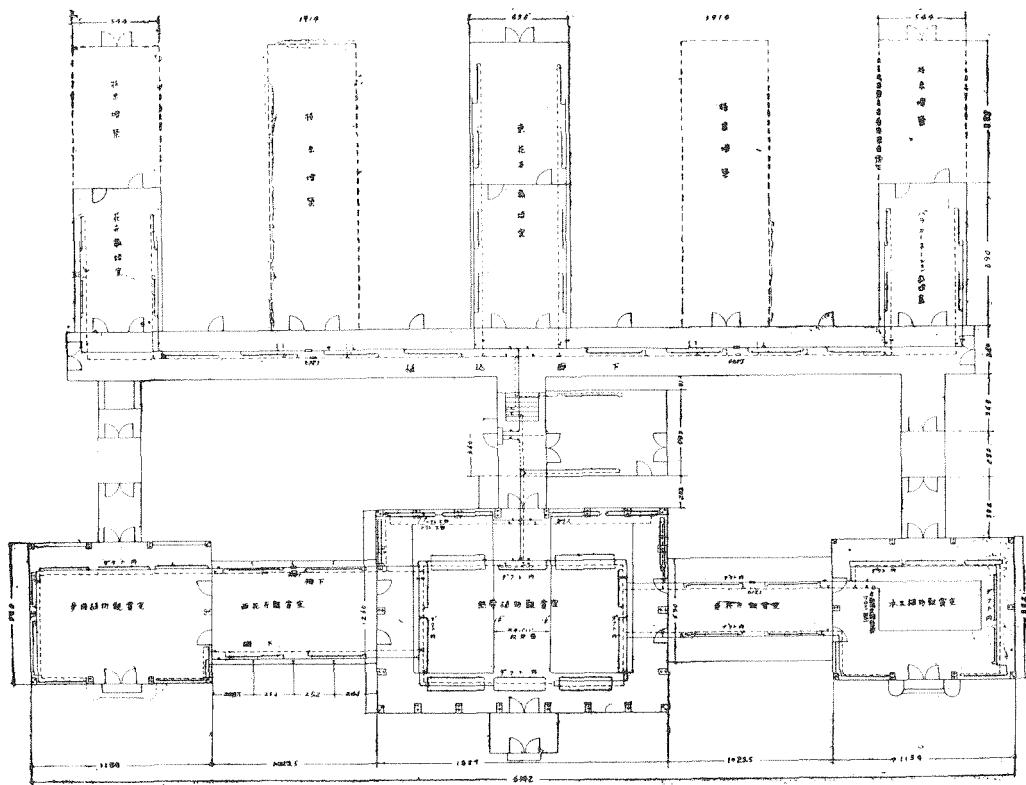
(4) ロ ッ ク ガ ー デ ン

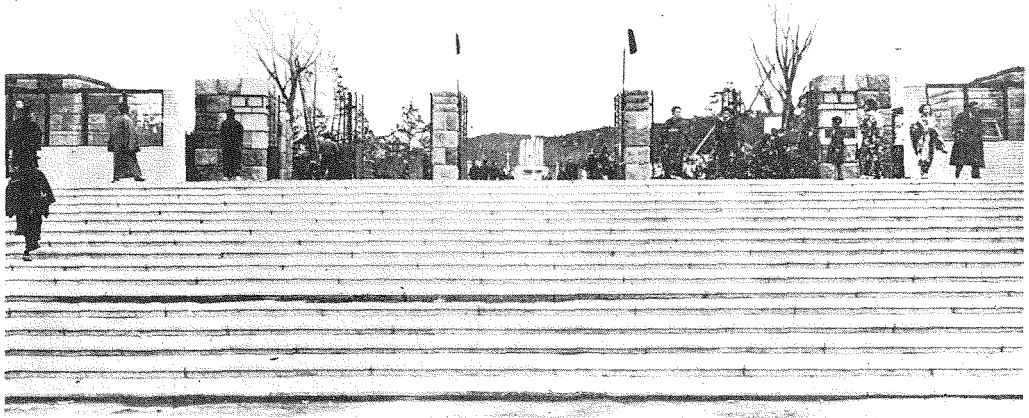




(5) 大溫室內部。

(6) 大溫室平面圖。





(7) 東山動物園正門

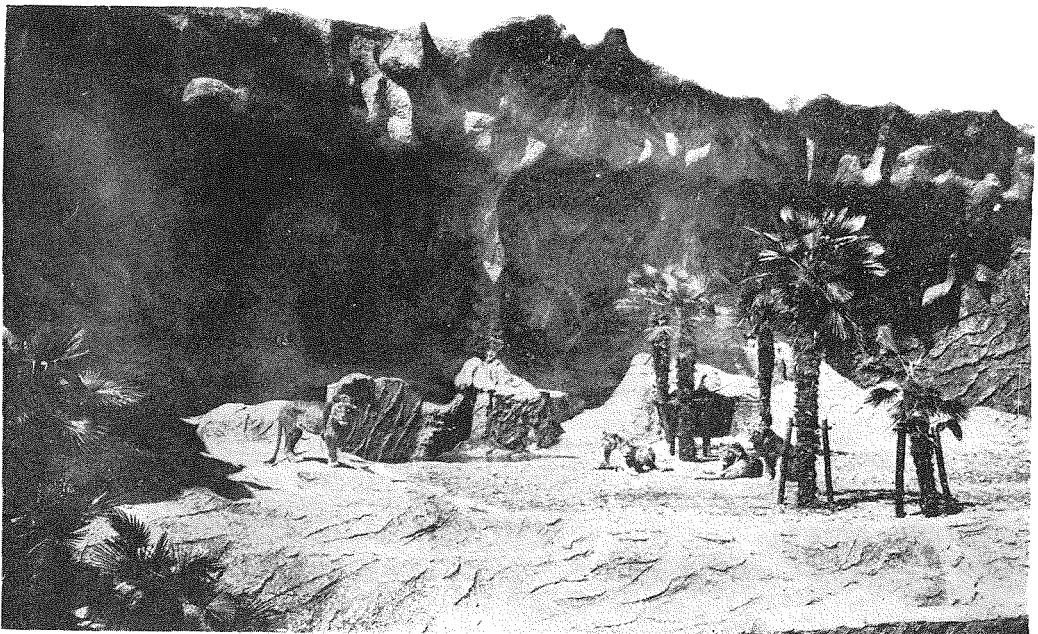
區分園を設け、其他栽植種類凡そ 2,500種以上に及んでゐる。

また園内には延長5軒幅員11米のドライヴウェイ、延長3軒幅員2米の逍遙路、面積5,000平方メートルの兒童園、2,300平方メートルの奥池等がある。

大温室は面積1,285.75平方メートル、鐵骨造にして全部電氣熔接に依つて施工した。建築費約75,534圓を要し、熱帯植物觀賞室、多肉植物觀賞室、水生植物觀賞室、花卉觀賞室、メロン葡萄室等栽培種類600種以上に及ぶ。

動物園

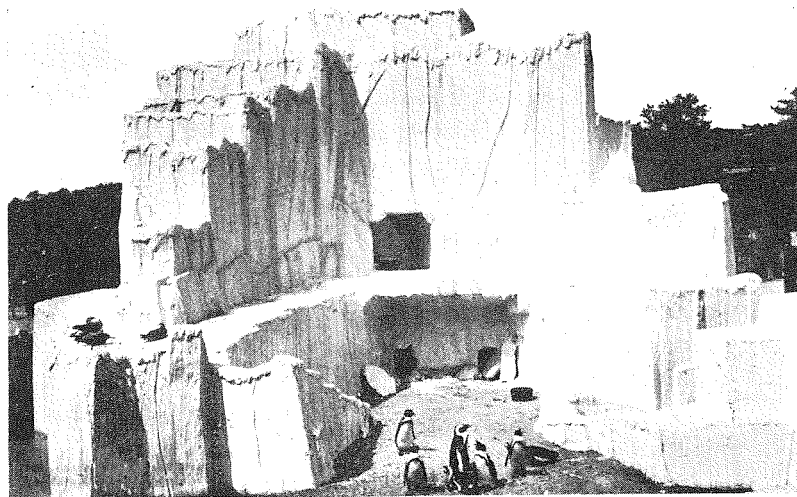
(8) **ライオン放養場**。大岩壁を背景とする獅子放養場には數頭の獅子が放飼せられ、濠を隔て、觀覽席に對する雄大なる風景を中心とし、其前下方には縞馬、大羚羊、駝鳥等の東アフリカ草原に棲む鳥獸類を放飼してアフリカ動物原産地の綜合的景觀を現出せんとした。





(9)北極パノラマ

白セメントを以て北極の氷山を模し白熊を放養する。又其前方には海獣の池があつて、海豹、海驢、おつとせい等を放し寒帯動物の生態を示さんとした。



(10) ペンギ島 南極産ペンギン鳥の水山である。

東山公園入口に位する地域約50,470坪を擁し、棟数56棟、建築面積5,667平方米、建築費55萬圓を要した。

本園は輓近動物園事業の進展に順應せる最新の設計になり、面積廣大にして規模の豪壯華麗なること東洋一と稱せらる。園内には近代式鐵筋コンクリートの獸舎が綠樹の間に點綴して一大美觀を呈するのみならず、名獸舎には夫々の動物に應じて其飼育上からも亦觀覽の上からも既成動物園の短所を補正せる最新の設備が施されてゐる。

尙本園の最も誇りとする特徴は動物の自然

棲息状態を現すため無柵式放養形式を主眼とした點で、之は従來の如く鐵檻を設けず特殊の装置に依つて動物の逸出を防ぎ、觀覽者は安全にしかも何等視野を遮るものなく直接に動物を見る事が出来るのである。而して其收容場は勉めて動物原産地の風景を模し、殆んど野獸自然の生活状態を彷彿せしむるものがある。尙園内には兒童遊園地、野外劇場等の設備も施してある。

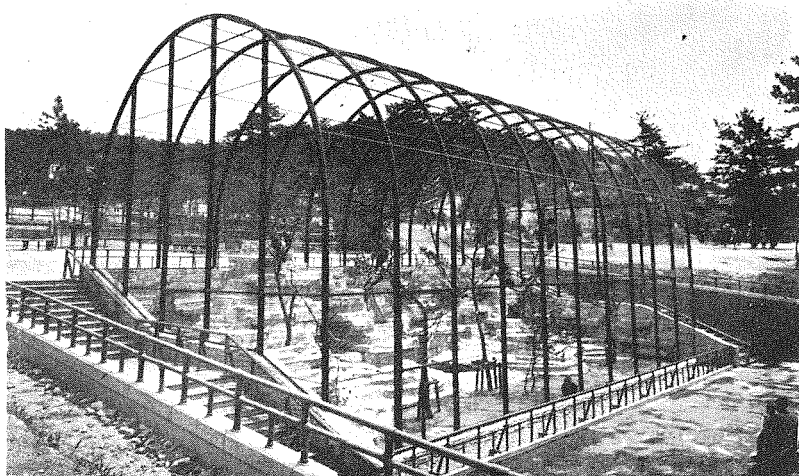
工 事

設計は名古屋市土木部建築課に於て之をなし、施工は株式會社北川組の請負である。

(11)猿ヶ島 日本猿の群棲状態を示す放養場である。



(12)鷺類放養場 嶮なる岩壁を背景とせる大放養場に鷺數十羽を放し、之が羽翼を擴げて大空を飛翔する壯觀を見せんとするものである。



(13)フライングケージ 廣さ100坪、高さ50尺の大水禽籠であつて、鶴、孔雀等を自由に飛翔せしむるものである。

